

うんこドリルと植樹体験

NPO 法人遠野エコネット及び遠野市と締結している「琴畑水源遊々の森協定」に基づき、今年度も琴畑川下流にある土淵小学校の4年生 11 名を対象とした植樹体験に協力しました。

5月11日には、4年生の教室で森林の役割等について事前学習を行いました。

森林の豊かさやその働き、森林の循環利用、山の手入れ作業について話しました。特に水源の森としての役割とそれを活かすためにはどうしたらよいかということ、林野庁が「うんこドリル」と初コラボした冊子を用いながら、楽しく学習しました。

児童の皆さんは一生懸命メモをとりながら学習してくれて、11名全員から質問がありました。「木の幹はなぜ茶色いのですか」や「世界には何本の木がありますか」など、難しい質問もありましたが、みんな積極的に学習している様子でした。



質問がとまらない4年生

5月24日、いよいよ山での植樹活動です。

児童1人2本のミズナラの苗木を植えます。慣れない唐鍬での作業に汗をかきながら、大人の協力のもと一生懸命穴を掘り、苗木を植えていました。その後、日差しも出てきたため、近くの沢からバケツで水を汲み、斜面を駆け上がりながら苗に水をかけてあげた後、シカ食害防止チューブを設置し、自分の名前を書いて作業を終えました。



丁寧に植樹しています

児童全員の感想を聞いた後、支署長から「みんなは、うんこドリルで習ったように、ごはんを食べて、動いて、うんこして、元気な体で大きくなって、これからの循環型社会を担って欲しい」とありました。

今後は、数ヶ月後に自分たちが植樹した苗木の様子を確認したり、どんぐりを拾って学校で苗木を育てるといった活動も予定されています。

児童たちが将来大きくなった時にも、自分の植えた木が水源の森として育っているか見に来てほしいと思います。また、周辺の木が利用された跡地には次の世代が植樹をするような、地域の方々と世代を超えた取組としたい活動です。

森林ふれあい担当：田口暁史